

No.3 広域での土砂動態の監視・観測を継続的に行う技術

ニーズの概要

- 災害後の土砂の動きが活発な流域において、土砂動態(量・質)を継続的に把握したい
- 局所(現地での測量・ボーリング・観測機器設置等)や広域(LP)といった既存技術の活用
に際しては、いずれも多大なコストを要し、継続性(データ連続性)の確保に支障



急峻な山間部での測量の様子



溪流での測量

流域における土砂動態観測

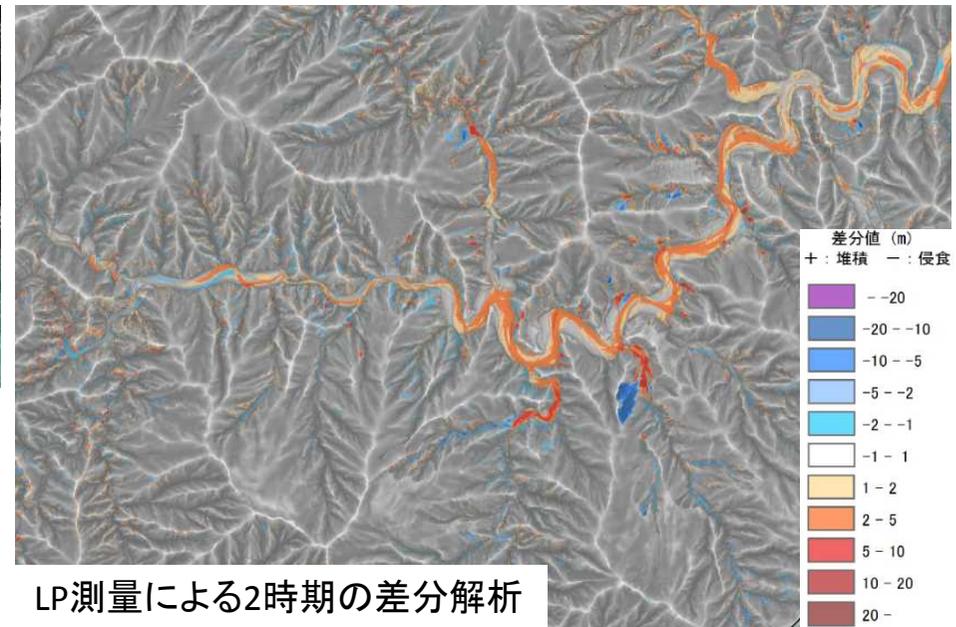


ボーリング調査の様子



崩壊地周辺での調査

斜面の変位観測



LP測量による2時期の差分解析

山間部の測量・調査は急勾配溪流・斜面での作業となり、コストのみならず、安全面にも課題。LP測量は安全・効率的作業可能だが、天候に左右され、深水部・濁水時の計測には不適、コスト大。

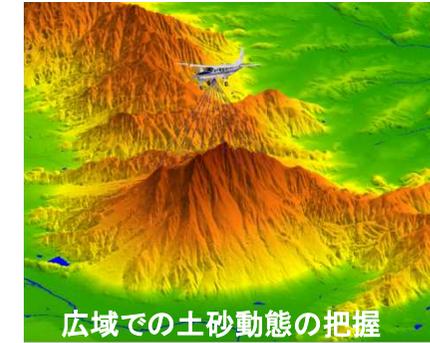
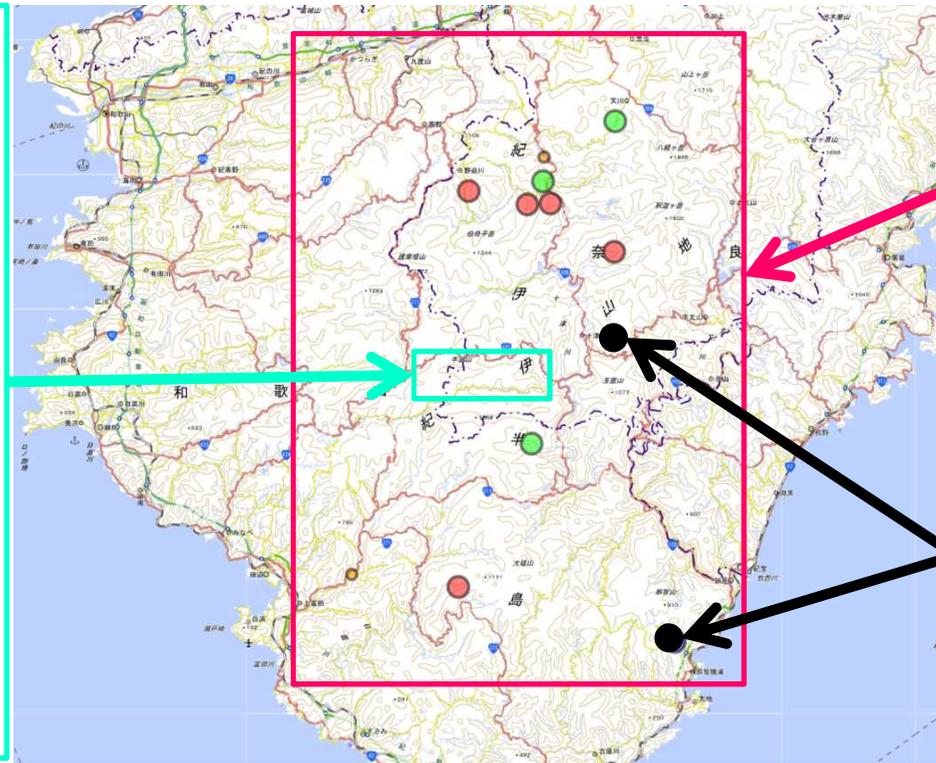
No.3 広域での土砂動態の監視・観測を継続的に行う技術

期待するシーズ

- 広域での土砂動態を把握する手法の低コスト化
- 低コスト化できれば、必要時期・範囲での確実な把握、局所的な土砂動態の観測との効果的な組み合わせにより、継続的な土砂動態の把握が可能に



溪流等小流域における土砂動態の把握



広域での土砂動態の把握



崩壊斜面等局所での土砂動態の把握

国民生活・社会経済活動の基盤となる国土の変化を的確に捉えることができれば、対策のみならず、今後の国土の適切な管理・利用に生かしていくことが可能に(蓄積によるデータ利活用価値の向上も)